



2017年10月、デンカ試験圃で行われたサツマイモの収穫祭。地元の方から「来年も待っているよ」などとお声がけいただくことも増え、社員にとっても大きなやりがいを感じる活動となっている。

そこに“できること”がある限り

3.11とデンカ

2011年3月11日、巨大津波が東北地方沿岸部を襲った。未曾有の被害をもたらした、東日本大震災である。当時、被災地の様子が連日メディアで伝えられ、全国からボランティアが駆けつけたが、時間の経過とともに少しずつ報道も減り、人々の記憶も薄れつつある。しかし、被害を受けた当事者の暮らし、産業の復興といった簡単には解決できない課題は、今も残されたままだ。

そんな中デンカは、2011年夏から宮城県の南三陸町を中心に、復興支援のためのボランティアを行ってきた。加えて、自社製品の暗渠パイプと肥料を活用し、塩害を受けた田畑を再生する取り組みもスタート。地元組合、農家の方々と一緒に工夫を重ね、2017年にはサツマイモ600株を植え付けた。この農地は現在「デンカ試験圃」と命名され、さらなる土壌改良を試みながら、タマネギやコメの試験栽培に取り組んでいる。

災害の爪痕は、簡単に消せるものではないだろう。それでもデンカの技術、人にできることをやり続けられれば、微力ながらもその傷を癒やしていくことができるはず。そんな思いを抱いて、デンカはこれからも、地元の方々の声を聞きながら活動を続けていく。

The DenkaWay

Spring

2020 | Vol.03



いのちの輝きに、Denkaができること。

Contents

- 2 **Challengers for Denka Value-Up**
ヘルスケア事業&グループ商社、再編
変革と連携、デンカグループ!
- 8 **Think INNOVATION**
「未知」に飛び込むには
スキールディック複合金メダリスト スキー指導者
キング・オブ・スキー 荻原 健司氏

- 9 **Amazing the World with Innovation**
いのちの輝きに、Denkaができること。
- 17 **DENKA TOPICS**
- 18 **LINK GLOBALLY, LINK FUTURE**
- 20 **ぐんばいコラム**

Challengers for
Denka Value-Up

ヘルスケア事業 & グループ 商社、再編

変革と連携、 デンカ グループ!

2020年4月1日、経営計画「Denka Value-Up」の達成に向け、グループ再編を実施しました。
同計画で重点分野に位置づけているヘルスケア事業では、デンカ生研とデンカが合併によりひとつに。
また商社2社を合併した「YKアクロス株式会社」がスタートします。

融合!

知見や技術が1つになって
ヘルスケア事業はさらなる成長へ!

デンカ



デンカ生研

新生!

営業力が強化され、デンカグループの
可能性を引き出す1つの商社へ!

アクロス商事



YKイノアス

同じ分野でそれぞれ独自に磨き上げてきた「人財」「知見」「技術」が、グループ再編によって融合する。このシナジーが、デンカグループのさらなる可能性を拓きます。

ワクチン・検査試薬の開発製造に強みを持つデンカ生研と、植物遺伝子組み換え技術によるノロウイルスワクチンの開発事業（独アイコン社）、がん遺伝子パネル検査事業などの先端的な研究開発を進めるデンカ。統合によって事業規模が拡大し、変化し続ける医療ニーズをスピーディーに捉える研究開発・販売体制が実現します。

また海外展開に強みを持つアクロス商事と、国内に細やかなネットワークを持つYKイノアス。両社が蓄えてきた人財や情報、営業網が結びつき、大きな経営資源を抱える商社へと進化を遂げます。

デンカグループのビジネスチャンスは、世界中のあらゆる分野にある。融合によって生まれたシナジーが、世界中のビジネスチャンスを切り拓いていきます。

Ever Greater Endeavors
Will Build the Future of
the Healthcare Field



デンカ株 執行役員
ライフイノベーション部門長

高橋 英喜

「より大きなチャレンジ」がヘルスケア部門の未来を創る

「デ」ンカグループのヘルスケア事業の中核を担うデンカ生研。売上も利益も伸びているのに、なぜ統合するのか——その理由は事業領域拡大を目指し、より大きなチャレンジをするためです。

新潟工場では現在、160億円を投じたインフルエンザワクチンの原液新棟が建設されています。これだけの大きな投資は、デンカ生研だけでは踏み切れません。デンカが背中を押すことで実現したのです。

またデンカ生研は創業以来70年の長きに渡って、抗原抗体反応の技術を用いたワクチン・診断薬を開発製造してきましたが、遺伝子検査の領域には踏み込んでいま

んでした。技術革新によって今ある技術が使われなくなったり、新たな感染症・疾病が発生し医療ニーズが変化することも珍しくありません。半導体製造技術を活用した遺伝子検査領域をはじめ先端技術の開発で先行するデンカとの融合によって、デンカ生研の事業領域が広がると考えたのです。

一方で、国内外4拠点のR&D^{*}やオープンイノベーションから生まれた最新技術は、デンカ生研のノウハウや生産設備、販売チャンネルがなければ、製品として市場に出すことはできません。研究開発という「入口」と、デンカ生研という「出口」。2つが重なって、デンカのヘルスケア事業はさら

る飛躍を遂げるでしょう。

さらに統合によって人的交流が盛んになり、新しい価値が創出されると期待しています。

例えば、デンカグループ他部門のスペシャリティー化への貢献。医療・ヘルスケア周辺領域は、薬機法にもとづく承認や臨床試験、また安全性や品質の担保というハードルがあり、異業種からの参入は簡単ではありません。そこでデンカ生研が培ってきたノウハウを活かせば、他部門がこの領域で新規事業を立ち上げられるかもしれません。

また当部門も、他部門が持つノウハウ

を学んでさらなる成長を遂げられるはずです。生産工学のノウハウ、海外事業の経験、総務・人事の業務改善……新しいアイデアを活かす場面は、技術・医療の専門分野だけとは限りません。

統合後も、デンカ生研の企業理念「人々の命を尊び、健康を守る」を掲げてまいります。防疫や早期発見を実現し、全ての人の健康に寄与する製品を提供する。それが付加価値となって、必ず利益につながると信じています。デンカグループの皆さん、ぜひ部門・事業の垣根を超え、ライフイノベーション部門とともに新たなチャレンジを起こしてまいりましょう。

ライフイノベーション部門

※研究開発拠点。東京都町田市・ライフイノベーションセンター、新潟県五泉市・五泉事業所、ドイツ・アイコン社、シンガポール・Denka Life Innovation Research。

Management Interview

デンカとデンカ生研。アクロス商事とYKイノアス。この4月から新たな形でスタートした会社。部門は、どんな未来へ向かっていくのか。デンカ株 ライフイノベーション部門 高橋部門長、YKアクロス株 中野社長が語ります。

Challengers for
Denka Value-Up

YKアクロス

「デンカグループの先兵となる」という気概を持って、アジアを攻める

合併によって「YKアクロス」が誕生し、デンカグループに売上高900億円規模の商社が生まれます。化学品専門商社のなかでも、比較的大きな規模です。この規模を活かし、これから一気に「攻め」に転じ、売上高1,000億円の大台を目指してまいります。成長戦略のキーワードは、「アジアで稼ぐ」。中国、台湾をはじめ、タイ、マレーシア、インド、さらにインドネシアやベトナムなど東南アジアで事業を成長させていきます。

お客様が商社に期待するのは「情報」であり、どれだけ新しい提案をしてもらえるのかということです。これまでは「東南アジア

をはじめ海外に強いアクロス商事」「国内に細やかなネットワークを持つYKイノアス」と異なる役割のもと、両社それぞれが情報や人財、商材を蓄えてきました。これから両社の垣根がなくなり、1つの会社として、より大きな経営資源を活かせるようになりました。またYKイノアスは住宅関係の工事部門という、アクロス商事にはないソリューションを持っています。両社の得意分野が融合することで、より幅広い事業展開できるようになる。それが「アジアで稼ぐ」を実現するエンジンになっていくと期待しています。「守り」の強化も進めてまいります。会社が大きくなり、リスクをコントロールする体制

を整備できるようになりました。与信管理や内部監査、ガバナンス強化など。特に海外事業や工事部門にはリスクが伴うもの。アクセルをしっかりと踏み込むために、「性能のいいブレーキ」を整えていきます。

もちろんデンカとの連携強化も重要なテーマです。開発・製造プロセスや営業戦略をデンカから学び、その知見をお客様への提案に活かす。また商社だからこその得られる情報をデンカにフィードバックし、デンカだけでは気付かない視点から新規事業の立ち上げを導く——デンカグループの成長目標に貢献するため、YKアクロスを「右へ左へとモノを動かすだけの会社」ではな

く、「自分たちが戦略を作り、デンカグループの先兵となる商社」にすべく取り組みます。時間がかかるかもしれませんが、ライフイノベーション部門の商材にもいずれ少しずつチャレンジしたいと思います。

YKアクロスの社員の方には「自分たちの可能性を過小評価せず、どんどん新しいことにチャレンジしよう!」と、デンカグループの皆さんには「YKアクロスを、もっと活用してください!」と伝えたいです。グループ一体となってさらなる成長を目指すのですから、遠慮はいりません。お互いに信頼し、忌憚なく意見を交わし、シナジーを発揮する関係を築いていきましょう。



Leap into Asia with the
Denka Spirit

YKアクロス株
代表取締役 兼 社長執行役員

中野 健次



ライフイノベーション部門

新しい出会い、新しいアイデア、新しいイノベーション。統合によって垣根がなくなり、東京、新潟、ドイツ、シンガポールはじめ国内外の仲間たちとつながる機会が、これからもっと増えていくはず。「全ての人々の健康を守る」という願いを叶えるため、これからもよりよい製品を届けていきます。

1 東京都・本社 ライフイノベーション部門オフィス 2 技術革新著しい医療分野。変化の兆しを捉えるため、国内外の動向に目を光らせる 3 新潟県五泉市・鏡田工場オフィス。ここで人々の健康を守る製品が生まれる 4 鏡田工場で働くライフイノベーション部門の皆さん

We Drive Denka
それぞれの、
スタート!

チャレンジにむけて 表情が引き締まる。
未来を思い描いて 笑みがこぼれる。
新たなスタートを切った両社の 皆さんの“姿”を切り取りました。

Challengers for
Denka Value-Up

Forward!

YKアクロス

「YKアクロス」が誕生し、これまでのアクロス商事とYKイノアス両社の仲間たちが同じオフィスで働くようになる。人と人が出会い、意見を交わす機会が増える。そしてお互いの思いが通い合う。あふれる情熱を胸に「私たちが、YKアクロスだ!」と先陣を切って、デンカグループをリードしていきます。

1 YKアクロス社員の皆さん 2 YKアクロス オフィス 3 コミュニケーションスペースを整備。ちょっとしたリフレッシュから、ビジネスを動かすアイデアが生まれると期待される 4 ミーティングスペース



No.03

“未知”に飛び込むには

スキースノーボード複合メダリスト
スキー指導者
キング・オブ・スキー



おざわら けんじ
荻原 健司氏

現在主流のV字ジャンプ技術を世界に先駆けて取り入れ、ジャンプで大差をつけ、クロスカントリーで逃げ切るスタイルを確立。オリンピックでは団体2連覇に貢献（1992年アルペールビル大会、1994年リレハンメル大会）。ワールドカップでは、1993年に日本スキー界初の年間総合優勝に輝き、その後、3連覇の偉業を成し遂げるなど無類の強さを誇り、「キング・オブ・スキー」の異名で知られた。現在は自身が代表を務めるスキーアカデミーにて、ジュニア世代へのスキージャンプ競技普及に尽力している。

世界中の選手たちを悩ませる「難題」を前に

スキー板をV字に開くことで揚力が増し、より遠くへ飛ぶことができる——スキー板を平行に揃えて飛ぶことがまだ当たり前だった1980年代終盤に、画期的な飛行技術「V字ジャンプ」は登場しました。

スキージャンプは、「飛距離点」と「飛型点」の合計点を競う種目。当時のルールでは、スキー板を開いて飛ぶと「飛行の体勢が乱れた」と見なされ、飛型点を大幅に減点されていました。

しかもV字ジャンプを取り入れたことで、かえって飛距離を落とす選手もいました。「V字ジャンプをやるか、やらないか」。世界中のスキージャンプ・複合の選手たちが悩んでいました。

なかでも特にV字ジャンプに慎重だったのが、良い成績を取っていた選手たち。「今まで通りの飛び方でも飛距離が出せるのに、わざわざリスクを冒すことはない」と様子を見ているようでした。



「自分はずっとできる」という可能性に賭ける

当時、私は大学4年生。ワールドカップはじめ国際大会に参戦していましたが、何年も世界ランキング30位前後に留まり続けていました。「このままでは、世界に通用する選手にはなれないだろう」と、大学卒業を機に引退することさえ考えました。次々に就職内定を得ていく大学の同級生たちには明るい未来が待っているのに、ずっとスキーに打ち込んできた自分は先が見えないまま。なんてオレは情けないんだ!と、焦燥感や劣等感は募るばかり。

理想にはほど遠い自分自身への不満のエネルギーが、今にも爆発しそうだったので。

そんな時期に「海外には『V字ジャンプ』というものを始めた選手がいる」という話を聞きました。日本ではまだ誰も取り入れていないし、必ず上手くいく保証もない。それに自分には、失敗してもやり直せるほどの時間は残されていなかった。ただ不満を抱えたまま現状維持を続け、そのままフェードアウトしていくなんて、絶対に嫌だった。

とにかく変化を生み出したい!——私は、悩むことなくV字ジャンプへの挑戦を決めました。「挑戦の先に、今より成長を遂げた自分があるかもしれない」と、“見えない未来”に賭けたのです。

そして迎えた翌年の1991-92シーズン。ルールが改正され、V字ジャンプに対する飛型点の減点はなくなりました。新たに登場した技術に応じて、後からルールが追いついたのです。現状維持を選んだ選手は完全に遅れをとり、いち早くV字ジャンプを始めた選手たちは大きなアドバンテージを得ました。そして私も、

世界の頂点へと登りつめる手がかりを掴んだのです。

外部環境は、ものすごい速さで進展していく。1年後がどうなっているかなんて誰もわからない。それでも私が恐れず挑戦できたのは、根底に「スキーが大好き」という原動力があったから。寝ても醒めてもスキーのことばかり考える。そのなかで工夫やチャレンジが生まれる。他人から「やれ!」と言われて本気でやれる人なんかいません。「自分はずっとできる」という可能性に賭ける自発的なエネルギーがあるからこそ“見えない未来”、すなわち“未知”に飛び込めると思っています。

特集

いのちの輝きに、Denkaができること。

innovation

ワクチン・検査試薬から、がん治療や遺伝子診断まで。
「予防・診断・治療」の各領域で、新たな価値を生み出している。
Denkaのライフイノベーション部門。
人々の豊かな暮らしを支えています。

ation

Amazing
the
World
with Innovation

デンカが叶える、豊かなくらし。



高齢化の進行や感染症リスクの拡大などの社会課題。
デンカは、これらの課題に取り組み、ソリューションを提供しています。

“高齢化社会の中でも
イキイキとした生活を
提供したい。”

超高齢社会が進むにつれ、
がんへの罹患者や、
変形性膝関節症など
膝に痛みを抱える人が増加しています。
デンカは「がん治療」と
「関節機能改善」の分野で、
人々のQOL向上に努めています。

膝関節の痛みを
やわらげる。



当社が独自開発した発酵法による高分子ヒアルロン酸ナトリウムを原薬として関節機能改善剤を製造しています。



がん遺伝子解析への
チャレンジ。



400以上のがん遺伝子に着目して、固形がん細胞中の遺伝子変異を解析するがん遺伝子パネル検査システムを開発中で、患者様一人ひとりに最適化された医療サービスが提供できる環境を創出しています。

悪性脳腫瘍の
治療へのチャレンジ。



「遺伝子改変単純ヘルペスウイルス1型」を用いた新しいがん治療法の実用化に向けた生産技術を開発しています。がん細胞では増殖するが正常細胞では増殖しないよう工夫されたウイルスで、がん細胞を死滅させる働きが期待されます。

“感染症の流行から
人々を守りたい。”

世界的な経済発展や交通網の発達により、
さまざまな感染症の流行リスクが
高まっています。
デンカは「予防・診断」の分野で
感染症から人々を守りたいと考えています。



予防の分野から、
人々の生活を支える。



デンカ（旧・デンカ生研）は70年以上にわたり、安全性と有効性を追求したインフルエンザワクチンを提供しています。

インフルエンザ
HAワクチン



Featured technology

敗血症への
チャレンジ。



独自の多項目同時検出技術「 π code™ テクノロジー」を用いて血液中の細菌遺伝子を検出する技術を開発中です。



迅速な診断で、
感染症診療の効率化を。



インフルエンザ迅速診断キットを使用したときの判定時間は5分。医療現場でのインフルエンザの診療に役立っています。

インフルエンザ
迅速診断キット



“毎日のスキンケアを
気持ちよく彩りたい。”

多様化し、急激に変化し続ける
社会環境において、
セルフケアにかけられる
時間は限られています。
デンカは基礎化粧品の提供を通じて、
毎日の生活を気持ちよく彩ります。

乾燥にさらされる肌を、
しっとりやわらかに。

デンカは、当社独自の発酵技術による「D.P.H.A.(Denka高純度ヒアルロン酸)」を配合した基礎化粧品「uruoi」を販売。無香料・無着色の特長を生かし、みずみずしい素肌へ導きます。



uruoi

敗血症患者の課題に向き合う 新たな遺伝子検出技術

デンカは現在、台湾のPlexBio社とともに、敗血症検査を迅速化する新たな遺伝子検出技術を使って、敗血症検査に求められる課題の解決に向け取り組んでいます。

敗血症とは？

血液中に病原体が侵入し、重篤な全身症状を引き起こす症候群。死亡率は時間単位で上昇するため、迅速な診断・治療が求められる。しかし、原因菌が多数に及ぶため、抗菌薬の特定が難しい。早期に原因菌を特定することは、患者の命を救うことのみならず、薬剤耐性菌対策にもつながる。

世界の敗血症による死者

1,100万人

1時間治療が遅れるごとに

死亡リスク7.6%上昇

原因菌の多数で、
候補が多数で、
有効な抗菌薬の特定が
困難

適切な抗菌薬の投与ができない場合

薬剤耐性菌^{*}の発生にもつながる

※薬剤耐性菌：細菌にとって猛毒である抗菌薬に対して防御する能力をもつ細菌のこと。細菌が本来持っていたり、他の細菌から譲り受けたり、抗菌薬投与で誘導されたりする。

参考文献：
「Global, regional, and national sepsis incidence and mortality, 1990-2017: analysis for the Global Burden of Disease Study」
「Kumar A, Roberts D, Wood KE, et al. Duration of hypotension before initiation of effective antimicrobial therapy is the critical determinant of survival in human septic shock. Crit Care Med 2006; 34:1589-96.」
「Brun-Buisson C. The epidemiology of the systemic inflammatory response. Intensive Care Med 2000; 26 Suppl.1: 64-74.」

敗血症検査の工程

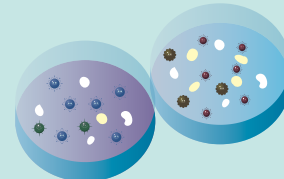
従来法

採血



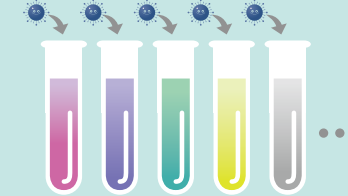
敗血症が疑われる患者様から、血液を採取。細菌の存在を確認する。

血液を培養



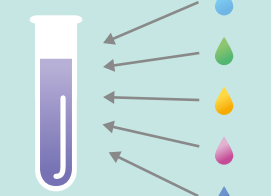
細菌が発育するために必要な栄養分が含まれた培地で、細菌を培養。

同定検査



培地上的の菌の集まり（コロニー）を調べ、菌の種類を特定する。

薬剤感受性検査



自動分析機器などを用いて、どのような薬剤が効くのかを調べる。

手作業のためこの工程が一番時間がかかる

病原体微生物の有無や菌の種類を特定に手間がかかる

抗菌薬が有効かどうかを一つひとつ調べる必要がある

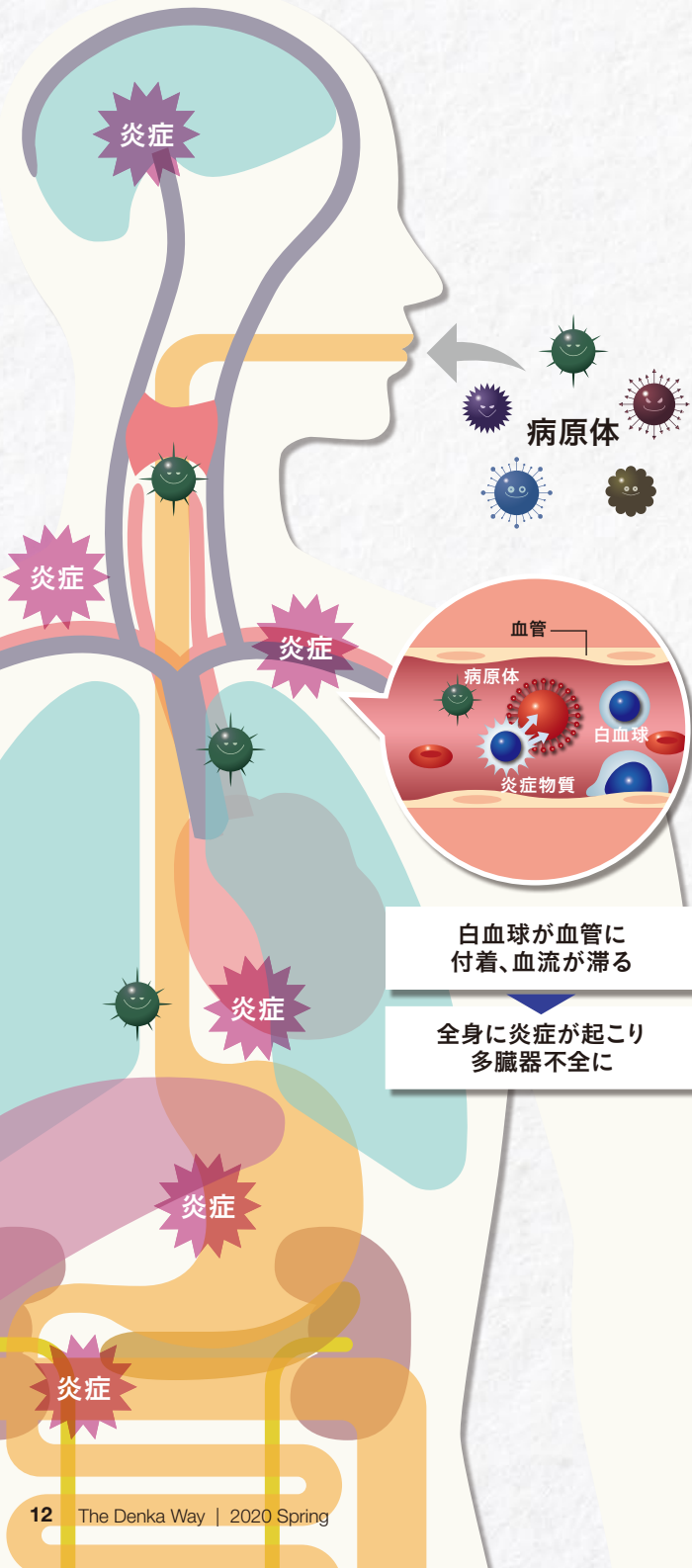
課題

検査結果を得るまでに
通常2日以上の時間がかかる。

検査時間の
短縮
を目指す。

現在取り組んでいる新たな遺伝子検出技術

菌の種類と、薬剤耐性に関する遺伝子を同時に検出。



白血球が血管に付着、血流が滞る

全身に炎症が起こり多臓器不全に

新遺伝子検出技術で拓く、QOLの未来。

敗血症検査に革新をもたらす、新たな遺伝子検出技術。

研究開発を進める、デンカイノベーションセンター ワクチン・バイオ研究部のプロジェクトメンバーに話を聞いた。

デンカイノベーションセンター ライフイノベーション研究所
ワクチン・バイオ研究部



ワクチン・バイオ研究部長
獣医学博士
いずたに のりゆき
井出 陽一

次世代型ワクチンや検査
試薬の開発を担うワクチン・
バイオ研究部を統括する。



グループリーダー
いずたに のりゆき
泉谷 憲幸

プロジェクトの統括を
担当。円滑に研究を
進められる環境づくりに
努める。



さかい けんたろう
坂井 健太郎

プロジェクトチームリー
ダーとしてPlexBio 社
からノウハウを学び、
9名のメンバーをまと
める。



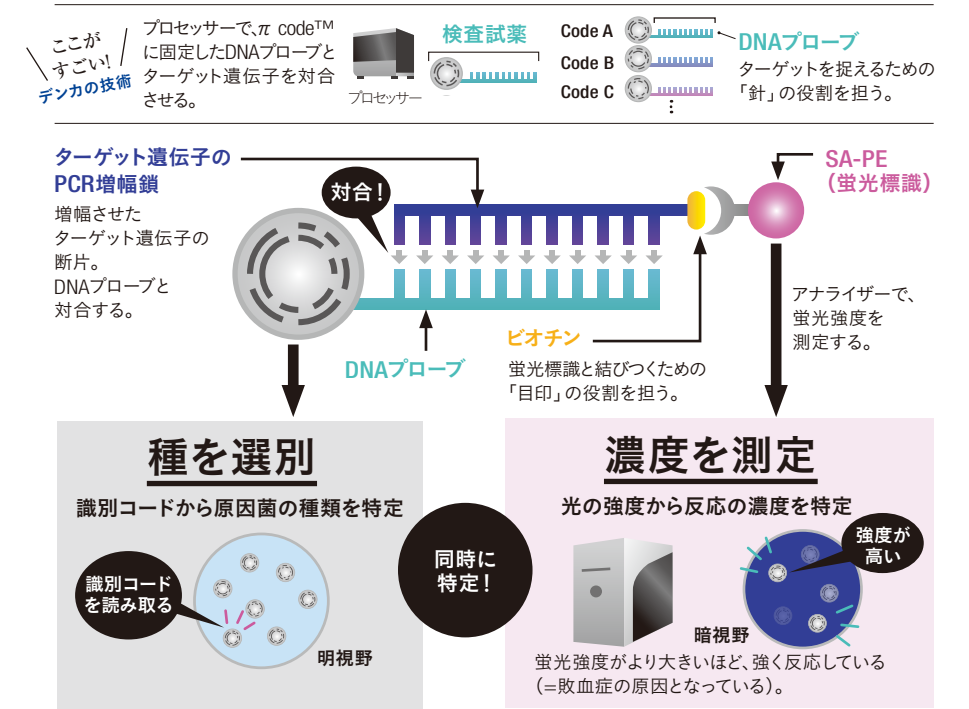
ひぐち みずほ
樋口 瑞穂

プロジェクトチームメン
バー。π code™に
DNAプローブを固定
させた試薬開発を
担う。



π code™を利用した遺伝子検出技術

π code™ごとに、目的とする菌種のDNAプローブを作成（核酸固定化）し、測定対象を捕捉。識別コードを読み取って原因菌を特定する。さらに、測定対象に蛍光標識を付着させ、蛍光を測定することで高感度に対象を認識する蛍光法と組み合わせ、多項目同時測定を可能にした。



「多項目・同時」測定で敗血症検査にイノベーションを起こす

敗血症の原因となる微生物をいかに早く特定し、適切な診断につなげられるか。この課題に挑むのが、デンカイノベーションセンター ライフイノベーション研究所 ワクチン・バイオ研究部の遺伝子検出技術の開発チームだ。

現在、敗血症の原因となる微生物を特

定する検査は、患者の血液や尿、喀痰、糞便などの検体を培養し、その有無や種類を調べ（同定検査）、さらに抗菌薬が有効かどうか（薬剤感受性検査）を調べる方法で行われている。この検査法は正確かつ有効である一方、2日以上時間が掛かってしまうことが課題とされている。

一方で、現在開発中の技術の特長は、π code™と呼ぶ識別コードと蛍光検出法を組み合わせることで、「多項目・同時」測定かつ高感度を実現したこと。これにより、敗血

症の原因となるさまざまな種類の微生物や薬剤耐性の有無を一度に検出できる。また、高感度である点を生かし、1日以下で結果を取得できるように開発を進めている。

ワクチン・バイオ部長の井出は、新技術の意義について次のように語る。「時間単位で死亡率が上昇する敗血症で求められるのは、早く診断を下し、迅速に治療を行うこと。さらに、より適切な薬剤選択と耐性菌対策にもつながります。この技術を用いた医療機器（体外診断用医薬品）を上市できれば、敗

血症の患者様のQOL向上に大きな貢献ができると考えています」。この技術は、敗血症患者の人命を救うとともに、薬剤耐性菌対策にもつながるイノベーションとなる可能性を秘めているのだ。

オープンイノベーションで拓く、デンカの新たな可能性

デンカグループ内での次世代型ワクチンや検査試薬の開発を担うワクチン・バイオ

研究部がこのプロジェクトを開始したのは、2016年。台湾に本社を構え、医療機器の開発やバイオテクノロジーサービスを行うPlexBio社と業務提携し、同社が開発した遺伝子検出技術の感染症分野等における日本・ASEAN地域での独占販売権と検査試薬の開発・販売権を取得した。

2016年3月、同技術のノウハウを学ぶために、台湾に赴任したのが坂井だ。「当社が担うのは、遺伝子を増幅させるPCR法に用いる試薬やπ code™とDNAプローブを

ターゲットを多項目・同時に検出できる!

Amazing the World with Innovation

固定化させた検出試薬の部分です。デンカが『遺伝子検査』の試薬開発を行うのは今回が初めて。PlexBio社の持つ知見をいかにデンカの知見として生かせるかを意識しながら、試薬の作成方法から機器を使った測定方法までの技術を徹底的に学びました。

同年10月には、ライフイノベーション研究所の研究テーマとして正式に決定。研究員として樋口を加え、チームメンバーを増員しながら試薬開発を進めている。樋口は語る。「敗血症の原因として考えられる微生物は、細菌やウイルス、カビなど、非常に数が多いのが特徴です。微生物の種類によって異なる遺伝子配列を検出し、整理するのが私の仕事。同じ種類であっても遺伝子配列が異なることもあります。試行錯誤を繰り返しながら、一つずつデータベース化する作業を続けています」。PlexBio社とのオープンイノベーションにより獲得した知見は、今、着実に芽をつけている。

デンカの強みを生かし、人々のQOL向上に貢献し続ける

デンカが目指すのは、早期の社会実装に向けた新しい遺伝子検出技術を用いた製品の薬事承認獲得。それ以降も、市場の

を反映しながら、診断ニーズに的確に応える診断プラットフォームへと磨き上げていく。「成功のカギは、総合化学メーカーとしてのデンカの強みを発揮することです」と語るの、グループリーダーの泉谷。製品化の過程には、デンカならではの知見を生かすことが不可欠だと話す。「この技術はヘルスケアだけの技術でつくられているわけではなく、半導体の技術も含まれます。今後、品質管理のフェーズに入れば、バイオだけでは解決できない問題も出てくるでしょう。デンカには、電子・先端プロダクツ部門をはじめ、他分野と連携できる環境があります。各部門の知見を融合させ、お客様・患者様にとって最適な製品をつくっていきたいです」。

最後に、井出はワクチン・バイオ研究部としてのビジョンを語ってくれた。「『多項目・同時』測定という特徴は、敗血症検査以外にも、例えば、呼吸器疾患や消化器疾患をはじめとする感染症診断などに応用できると考えています。計り知れない可能性を持ったこの研究を通じてQOLの未来を切り拓いていきたい。そのための挑戦を続けていきます」。

デンカの志高き挑戦者たちが、未来の人々の生活をより豊かにしてくれる。

今後の研究開発スケジュール

現在、敗血症における遺伝子検出技術を生かした製品の薬事承認申請を早期に行うべく、研究開発中。その後、多項目・同時検出技術をさまざまな分野へ応用していく。

- 例 ■ 真菌感染症 ■ 免疫学
- ウイルス感染症 ■ 研究を含めたライフサイエンス全般への適応 など



誰もが安心してくらせる
世界をつくりたい。
そう、化学のチカラで。

Amazing
the
World
with Innovation



PlexBio Co., Ltd.
Sales & Marketing
International Sales &
Marketing Director (APAC/ME)
クレメント・ホアン
Clement Huangさん

坂井とコミュニケーションを図りながら、遺伝子検出技術の開発プロジェクトの取りまとめを担当した。

デンカの堅実な分析力と市場のリサーチ能力、そして高いプロ意識を持って柔軟かつ迅速に対応する姿勢に驚かされました。オープンイノベーションによって、遺伝子検出技術の開発プロジェクトは順調に進んでいます。バイオ分野の競合企業から抜き出るために必要なのは、いかに人々に貢献できるか。お客様、そして敗血症患者様に貢献するためにも、必ずやプロジェクトを成功させたいと思っています。

DENKA TOPICS

2020年1月～3月のデンカグループの主なトピックスをご紹介します。

Jan. 自動車向け 高耐熱アクリル系特殊エラストマーを新開発



1月、当社はアクリル系をベースに高耐熱性を実現した特殊エラストマーを新たに開発した。アクリル系エラストマーとしてこれまで困難であった約190°Cの温度領域下での高耐熱性を実現。ガソリン車のターボホース用のゴムとして、エンジンのダウンサイジング化を推進し、環境負荷の低減に貢献する。

Jan. 新機能性樹脂「デンカIPXシリーズ」の 本格販売を開始

1月、当社はABS耐熱付与材デンカIP®の新グレード「デンカIPXシリーズ」の本格販売を開始した。デンカIP®の特性である高い耐熱性と低VOCに加え、耐薬品性・塗装性の



改善など、各性能の向上を実現。自動車業界のハイブリッド・EV化というニーズに幅広く対応していく。

Feb. 大牟田工場に新総合事務所 「Omuta Innovation Hub」が竣工

2月27日、当社の大牟田工場（福岡県大牟田市）に新総合事務所「Omuta Innovation Hub」が竣工した。これまで点在していた製造・研究・生産技術部門を集約し、工場のハブ（中枢）として一体的・機能的な運営を実現。業務プロセス改革や働き方改革を推進し、生産性向上を図っていく。



Jan. 「TEFKA®」が隈研吾氏監修の 「CLT PARK HARUMI パビリオン棟」に採用

当社が建築構造膜用途への展開を進めている高性能フッ素系フィルム「TEFKA®」が、隈研吾氏監修のイベント施設「CLT PARK HARUMI パビリオン棟（東京都中央区）」に採用された。「TEFKA®」はガラス並みの高い透明性や光透過性が評価され、CLTを使用した建築物に初めて採用となった。



CLT壁面パネル間に「TEFKA®」を使用

Jan. 「CDP水セキュリティレポート2019」、 「CDP気候変動レポート2019」で高評価獲得

環境情報開示の透明性や経営の関与を評価するCDP（本部：ロンドン）の調査において、当社は「CDP水セキュリティレポート2019」で「B」評価、「CDP気候変動レポート2019」で「A-」評価を獲得した。今後も環境情報の開示強化を推進し、「ESG（環境・社会・ガバナンス）」を重視する経営を進めていく。



Mar. ノロウイルスワクチン・がんゲノム検査・ COVID-19簡易検査キットの研究開発を加速

デンカグループはヘルスケア事業における研究開発を加速すべく、研究施設の増強やオープンイノベーションを進



一般的な簡易検査キットのイメージ

めている。グループ会社であるIcon Genetics GmbHは、今後ドイツに研究開発施設を新設し、ノロウイルスワクチンの研究開発を推進。また、デンカは九州大学と共同研究部門を設置し、がんゲノム検査技術の発展に貢献していく。さらに、デンカ生研(株)（現・デンカ）は国立感染症研究所とともに新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の簡易検査キットを開発中。今後も人々のQOL向上に貢献していく。

以物為己，不復韶年

自分の夢を原動力に、美しい青春時代を無駄しない



China

電化電子材料 (大連) 有限公司 (DEMD)
品質保証部門
Cong Chunyan
丛春燕

旅行が大好きです!

2015年入社。品質部門管理者として、品質の改善とその安定化に努めている。

本社や大牟田工場と安全や需要動向、品質に関する情報を密に共有し、業務を進めています。こうしたコミュニケーションをもとに、社会に貢献できる製品と明るく快適な職場の実現に取り組んでいます。既存製品の生産性向上と新規製品の中国移管による事業の拡大を検討している大連工場では、今後も日本と連携を取りプロジェクトの実現に向けて会社一丸となり取り組んでいきます。



中国の丛さんはどうですか?

CLOSELY LISTENS TO CUSTOMERS NEEDS AND IMPROVES ACCORDINGLY



India

Akros Trading India Pvt. Ltd.
Assistant Manager Sales
ビドゥール バット
Vidur Bhatt

多趣味だけどギターも習いたい!

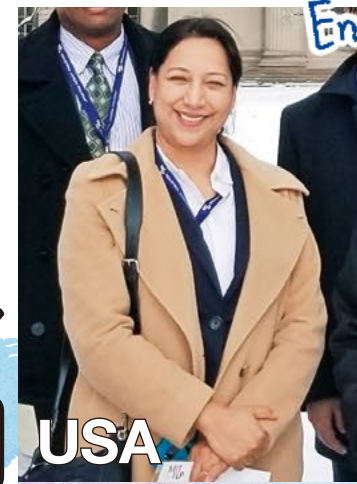
2019年入社。営業のアシスタントマネージャーとしてデнкаアセチレンブラックのインド市場での販売を担当。

デнкаではお客様のニーズに耳を傾け、より良い製品作りを一緒に行うことで持続的な成長が可能になっています。さらに、私は入社してからたくさんの従業員と交流して気付いたことがあります。それはデнкаの従業員が熱心に仕事に取り組むだけでなく、互いに尊重し合っているということです。従業員が最大限に能力を発揮できる土壌がデнкаにはあります。



インドのVidurさんはどうですか?

USAのMousumiさんはどうですか?



USA

Denka Corporation USA, Louisiana office
Technical Services, Elastomer
モウシュミ サーカー
Mousumi Sarkar

Encourage, Engage & Empower...

新しいことへのトライ、問題解決が好きです!

2016年入社。エラストマー事業のテクニカルマネージャーとして、技術的課題の解決や新製品の北米市場への展開を担う。

新しいアイデアを求め、社内外で積極的に交流しています。新製品の北米市場への展開で狙う領域はまだ発展途上。製品の性能や潜在的用途を学び、ニーズに合致した製品開発にチーム一丸となり取り組んでいます。お客様を通じて築いたネットワークだけでなく、デнкаの各分野のエキスパートと議論を重ねることで実現可能性を精査し、ポートフォリオ戦略の構築が実現すると考えています。

中国のEricさんはどうですか?

LINK GLOBALLY, LINK FUTURE

デнкаの未来へ、世界の仲間と

デнкаグループの仲間 は世界に6,000名。
各国の皆さんに同じテ マで質問してみました。

Theme 社内コ ラボレーション



Singapore

Denka Life Innovation
Research Pte Ltd.
Molecular Diagnostics-Sepsis
Li Hankun
李翰坤

Try Everything!

得意料理は茶碗蒸しです!

2018年入社。敗血症分子診断チームの科学者として、主にバイオインフォマティクス解析などの開発を担当する。

私たちのチームはライフイノベーション研究所の研究チームと協働で、敗血症の検出アッセイの開発に取り組んでいます。研究所の科学者や事業部門の方々と密に連携し、デнкаのさまざまな部門と毎月ミーティングを実施。私たちの研究プロジェクトの成果や進捗を議論しています。こうして私たちは一定の成果を収めることができます。

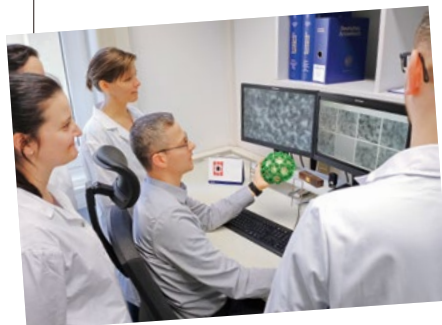
シンガポールの李さんはどうですか?

Cultivating Healthcare

毎週日曜日、競走用自転車に乗っています!

2015年7月入社。分析マネージャーとして、ワクチンなどに使用される組換えタンパク質が決められた仕様を満たしているかを確認しています。

当社の良いところは、すべての部門が密接に業務し、互いに情報交換ができることです。各部門がどのように業務しているかを共有し、異なる視点から業務のやり方を確認し合っています。このような部門内、部門間でのコラボレーションにより、社員一人ひとりが新たな方法を発見し、新たな強みを育んでいます。



Germany

Icon Genetics GmbH
品質管理部門
アンドレ ディースナー
André Diessner

ドイツのAndréさんはどうですか?



China

Denka Chemical
Hong Kong Limited
エリック チュウ
Eric Chu

Happy Friday Everyday

マジメなエリック!

2016年入社。Vinitapeチームのセールスとして、バイヤー/ディーラーへ宣伝を行う。

私の担当製品は色々なところに利用できる汎用品です。そのため、事業拡大に向けてチームメンバーとの情報共有を大切に、様々な業界へ製品をPRしています。年数回開催される展示会でも、メンバーでしっかり協力して、常に新しい提案と優れた出展を完成させることを心がけています。

